平成 22 年度　事務事業事後評価調書（平成　21　年度事業）

整理番号	5 － 10

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	精神障害者･家族等支援事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		保健係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	葛西隆		氏名	佐々木希美枝
事業の概要	精神障害者当事者及び家族が、住み慣れた地域での生活の継続と生活の質の向上を図ることを目的に、地域生活･社会参加に資する活動を支援する。			全体計画 /単年度繰返 （平成 20 年度～ 24 年度）		
				事業費	国･道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	千円
					事業費計	千円
実施方法	■ 直営		民間委託		その他（　　）	
第 5 期 総合計画（前期）	■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	2	ぬくもり･雄武～保健･医療･福祉の充実～			
	基本施策	6	保健･医療の充実			
	単位施策	4	メンタルヘルス対策の推進			
	事務事業の種類	■	自治事務		法定受託事務	
	その他計画･根拠等		精神保健福祉法、障害者自立支援法			

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国･道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	千円	千円	千円	千円	千円
	合計	千円	千円	千円	千円	千円

2　事務事業の目的･内容（Plan･Do）

【誰、何が（対象）】	精神障害者･家族等関係者	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	精神障害を抱えながら地域で安定した健康的な生活を送ることができる	精神障害に関する相談件数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	病状が安定し、充実した地域生活を送ることができる	① 精神障害全般に関する相談件数の増（平成２０年度実績　４６１件）	目標年度	平成21年度
			目標値	461 件
			実績値	365 件
			達成度	79.2 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	健康的で充実した地域生活を送る精神障害者が増える	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
精神障害者家族会･回復者クラブ運営支援	家族会月１回及び回復者クラブ月２回の運営支援
個別相談支援	訪問･電話などによる個別相談支援

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	■ 義務的なもの □ 全部 ■ 一部	精神保健福祉に関する相談支援は身近な市町村で実施する義務がある。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

概ね有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □ 達成 ■ ほぼ達成 □ 下回る	各種福祉サービス利用者からの相談は実施しておりほぼ目標を達成している。相談者は固定化されており、相談を必要としている方が適宜相談できるよう周知が必要と考える。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■ 事業費抑制 □ 人員削減 □ 時間短縮・作業軽減 ■ その他	事業経費の負担はなく、支援に要する人員も必要最低限として効率化を図ることができた。また、西紋地域活動支援センター相談員の協力を得るなど支援の専門性や広域化も視野に事業運営を工夫することができた。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 ■ 受益者負担がある □ 受益者負担がない □ 受益が一部に偏る ■ その他	家族会等の運営は主に受益者負担により運営されており、公平性を保つことができた。自主活動組織ではあるが、精神障害に関する団体としては町内で唯一の団体であり、同じ課題を抱える当事者にとっては悩みを共有し支え合いを通して地域生活を継続する上で重要な組織であることから、一定の支援が必要であると考える。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
会員の高齢化や町外への転居等のため参加者数は徐々に減少しているが、計画通り事業を進めることができた。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
第3次雄武町障がい者計画の目標に定められている町内における地域活動支援センターの運営を視野に入れて当事者ニーズを踏まえた支援を進めていく。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）